

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立錦糸中学校
校長名	和田 浩二

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p><1年生></p> <p>○国語「読むこと」の領域で、全国平均率を上回った。</p> <p>○社会2観点で目標値を上回った。</p> <p><2年生></p> <p>○国語「読むこと」の領域で、目標値を上回った。</p> <p>○国語「漢字を読む・書く」問題の正答率が昨年度より高くなった。</p> <p>○社会、理科の記述式問題における無解答率が、区全体の平均無解答率とほぼ同率であった。</p> <p><3年生></p> <p>○国語「読むこと」の領域で目標値を上回った。</p> <p>○社会の記述式問題における無解答率が、区全体の平均無解答率とほぼ同率であった。</p>	<p><1年生></p> <p>●全教科において、記述式問題の無解答率が、区全体の平均無解答率よりも高い。</p> <p><目標値より-5以上の観点></p> <p>1年生→国語1観点 社会1観点 理科1観点 英語1観点</p> <p>2年生→社会3観点 数学3観点 理科3観点</p> <p>3年生→国語2観点 社会3観点 数学3観点 理科2観点 英語2観点</p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>○学校以外で、勉強する習慣が全国平均よりも高い傾向がある。</p> <p>○勉強するときは計画を立てる生徒の割合が全国平均よりも高い傾向がある。</p>	<p>●学校の授業の予習や復習を全くしていない生徒が、10～20%程度いる。</p> <p>●テストで間違えた問題をやり直すことをしない生徒が40%程度いる。</p>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>○一人1台のタブレット端末を活用し、学習支援アプリでの意見の共有や AI 学習教材での自主学習に、積極的に取り組んでいる。</p> <p>○各生徒が得意とする教科への意欲は高く、すすんで学習する姿が見られる。</p> <p>○校内学習コンテストを実施し、多くの生徒が高得点を取り、基礎的・基本的な学力の定着につながっている。</p>	<p>●授業中に自分の考えを積極的に発言するが、探求的な学習になると発言や記述することができない生徒が多い。また、学習の振り返りを適切に書くことができない生徒が多い。</p> <p>●家庭学習に取り組む時間が短い生徒が多い。家庭学習ノートに対し、目的をもたずに単純な作業になっている生徒が多い。目的意識をもって取り組ませる指導をする必要がある。</p>

○漢検、英検、数検に取り組む生徒が多く、外部講師を活用した講座を実施し、合格率50%を目指している。

●各教員が生徒たちの課題を把握し、授業の中で補完できるよう授業内容を組み立てて実践することが必要である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1)学習の基礎・基本の定着

①基礎・基本定着のための時間設定

既習事項の確認の時間、得た知識を基に説明をする時間、テストの振り返りをする時間を意図的に設け、学びの定着を目指す。また、自分が何を学び、何を身に付けたかの認識を深めるため、一単位時間ごと・単元ごとの振り返りの時間を大切にす。

②個別最適化された学びを実現する ICT の活用

QubenaやMonoxer、ミライシードなどのAI学習教材を活用し、授業や家庭学習・朝学習などで自由に取り組める時間や機会をつくるとともに、学習履歴を教員が確認し、生徒一人一人に励ましやアドバイスをを行い、学習の基礎・基本の定着を目指していく。

③各種学力調査の結果の分析、学力向上プランの作成

学力向上委員会を中心に、各種学力調査の結果の分析を行い、分析結果や生徒の普段の様子をもとに「学力向上を図るための全体計画」を校長が作成する。

各教員は「学力向上を図るための全体計画」に基づいて「学力向上プラン」を作成し、授業を実践及び検証し、生徒への学習支援を行う。また、その際に、今回正答率の低かった問題を、次学年の生徒に示し、同様の誤答や無解答につながらないようにする。

(2)家庭学習の定着

①家庭学習ノートを活用した予習・復習

1日1ページ以上を目標として授業の予習や復習に取り組む「家庭学習ノート」を活用する。授業での生徒の振り返りに応じて、適切な課題例を示し、それを中心とした家庭学習を習慣化させる。

②手帳を活用した学習計画づくりの支援

手帳を介した生徒と教員のやり取りを通じ、一日の過ごし方や学習スケジュールの進め方、目標の設定などを助言し、一人一人に合った学習計画の立て方が身に付くように支援していく。

また、心理学を専攻している大学教員の授業を実施し、目標や学習計画を立てることの大切さについて指導する。

(3)ふり返りシートの活用、校内学習コンテストの実施等

①ふり返りシートの活用

学年・教科ごとに用意された「ふり返りシート」を区で設定した10月と1月から3月末までの期間に加えて、定期考査前、単元の学習から数ヶ月経った時期にも活用することで、学習内容の定着状況を確認し、個別に支援を行う。

また、生徒が家庭学習等に活用するため、自主的にシートを手にとることができるよう、プリント棚に印刷したふり返りシートを常設しておく。

さらに、学年末に過去問題に取り組ませ、知識の定着していない単元を明らかにする。定着していない学習内容に関しては、該当箇所を重点的にふり返りシートで学習を行う。

②定期考査対策教室による個別指導

定期考査前一週間に、希望制の定期考査対策教室を開設し、個々の学習のフォローアップを行う。

③校内学習コンテストの実施

Monoxerを活用し、校内学習コンテスト(5科)を行う。基礎的・基本的な学力の定着や年間を通して目標をもち、計画的に学習に取り組む態度の育成を目指す。この取り組みに対する意欲を高めるため、満点獲得者には満点賞、90%以上の達成率の生徒には高得点賞として表彰を行う。

④検定取得の推奨

漢字検定、英語検定、数学検定の受験を推奨し、外部講師を活用した英検対策講座、数検対策講座を実施する。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1)目標

- 全学年、すべての教科で全国平均を目指す。
- 各学年各教科において、DE層の割合を40%以下にする。
- AI学習教材を適切に用い、知識・技能の観点で目標値到達を目指す。